

次世代統合オフィスシステム“アラジンⅡ”

1 G-4

-システム概要-

沢田輝実 花田信夫 徳永孝 山崎幸雄

日本電気(株) 情報処理システム技術本部

1. はじめに

NECでは、パーソナルコンピュータの普及による単体作業の効率化の次のステップとして、個々の作業を組み合わせ一連の仕事として捉え効率化を図ることにいち早く注目した。この考えのもと、1983年コンピュータに支援された統合オフィスシステム“アラジン”を開発した。

今回、この次のステップとして、グループ活動や企業活動の支援を目的とする次世代統合オフィスシステム“アラジンⅡ”を開発し、本社ビル(NECスーパータワー)のオフィスシステムとして実用化を図ったので報告する。

尚、アラジンⅡシステムで採用した個別の技術、機能に関する報告は別稿に譲り、本稿ではシステムの概要ならびに狙いについて紹介する。

2. 次世代統合オフィスシステム

2. 1. 従来の統合オフィスシステム

オフィス業務から定常的なルーチンワークを取り除きオフィスワークをより創造的な仕事に振り向けることが一つの目標であった。

この手段としてコンピュータを活用し、個別の資料作成ツールやそれより作成した資料の共有/蓄積を行う電子ファイリングサービス、他人へ効率的に資料を伝える電子メールサービスを統一されたインタフェースのもとで利用することを目的に統合化を図ってきた。

2. 2. 次世代統合オフィスシステム

ルーチンワークの省力化からさらに

一歩踏み込んでオフィスワークの創造的な仕事をより積極的に支援し知的生産性を上げうるオフィス環境の提供を目指している。

つまり、オフィスにおける生産活動としてグループや企業組織レベルでの情報の価値連鎖を総合的に支援することである。

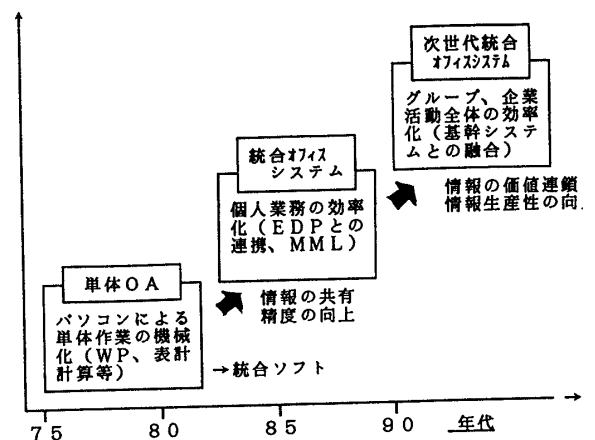


図1. オフィスシステムの発展

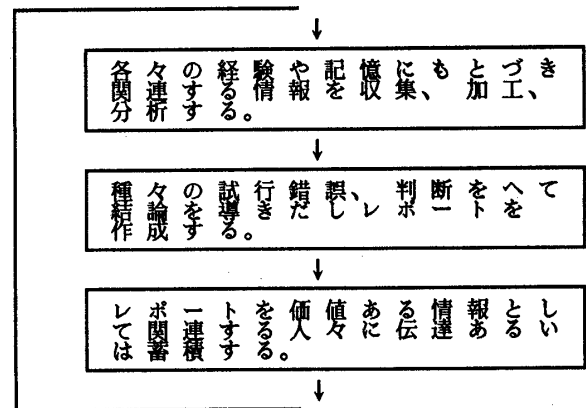


図2. 情報の価値連鎖

以下に、次世代統合オフィスシステムが具備すべき基本要件を示す。

と本
造基
創る
のえ
報支
情を
る）と
あ鎖こ
値連る
価値す
る価有
けのを
お報み
に情組
組織（仕
組環な
①循的

- ・ 情報基の幹情集 (検 索、蓄) あ ら
 ・ 情報基の幹情集 (シ 源) ズ ム 含 む
 ・ 情報基の幹情集 (通 知、分 析、判 断)

現、な総
表々像て
報一映し
情デと
の値声、報と。
態数音情こ
形、りアる
のり、よい得
々まとデし
種つもメ工
るはチ加
えるフル
扱れラマ理、
が入グむ処
間り、含に
人取章、を的
②を文と合

③ 人間の思考活動に合ったヒューマンインタフェースを有すること。

3. アラジン II の設計方針

次世代統合オフィスシステムの要件をベースに、アラジンⅡの設計方針として次の点を考慮した。

① オ推進 個ィで機
タスキ構。
の情る
オ報分
フに散
ィよ情
スリ報
の整処
主然理
管と機
業し構
務た及
、活
主動そ
管をの
オ推運

チ表、音由檢
ル（自／
マタジら積
な一か蓄能。
的デメス／可
本、イワ換が
基章、を變と
る文）報／こ
す「票情工る
用態帳合加す
使形、複／送
で報フの集伝
ス情ラ」編／
ィアグ像／示
フィ、映成表
オデ形、生／
②メ図声、に素

のる準、部
間す基一
) 存断門境。
プ依判部環
一に、作
ル理や、司、操
グ原き上る
(動統一き
ス行手下で
ィの理部応
フ織処(対
オ組報路に
と情経軟
間程ス通柔
人過ィ流に
個考フ報)
③ 思才情門

④ W S かとら は シ ス テ ム 内 の ど コ シ ビ
 ャ ー タ も 接 続 でき 誰 の の が W S
 か ら で 要 と す る 業 務 の 行 可 能。

ネ築情かか
や構ス、の
続ムイキ担
接テフで負
規スオにに
新シの由者
のの規自理性。
タ域新が管更
一広に録ム対
ユるら登テと
ビよさのS性
ンに、報シ軟
コクリ情・柔
や一で務者い
Sフ能業用な
Wト可・利ら
⑤ッが報つか

4. アラジン II を支える技術

アラジンⅡ全体のソフトウェア実装構造を図3に示す。

次に、アラジンⅡを実現するに当たって特に重要な技術要素を以下に示す。

① イタ クン実 ラグ装 イモ方 アデル シルの ノ採用 サ一と、 バコ性 シン能 ビを重 ュ一視 テし

散、
分く、
るづ
がと
たもろ
まにビ
にれ一
タそサ
一とル
ユ式一
ビ方メ
ン理ス
コ管イ
の源フ
数資オ
複報・
②情

- ・ オフイス
- ・ 人事
- ・ 事務
- ・ 移動
- ・ スター
- ・ フォル
- ・ ルサ
- ・ ービ
- ・ ス
- ・ オフ
- ・ イス

③ オ フ イ ス 情 報 (組 織 の 情 報) を 利 用 し
た、電 子 伝 票 票 環 境 。 た、業 務 構 築 環 境 。 M M L オ フ

作ス 操カ たた れし さ着 一密 統に式。 る織方 よ組理 にや管 用人の 採個能 のと機 I求ズ U追イ Gのマ ④性タ

⑤ ア プ リ ケ ー シ ョ ン プ ラ ッ ト フ ォ ー ム
とし て の ア プ リ ケ ー シ ョ ン 統 合 管 理 方
式。

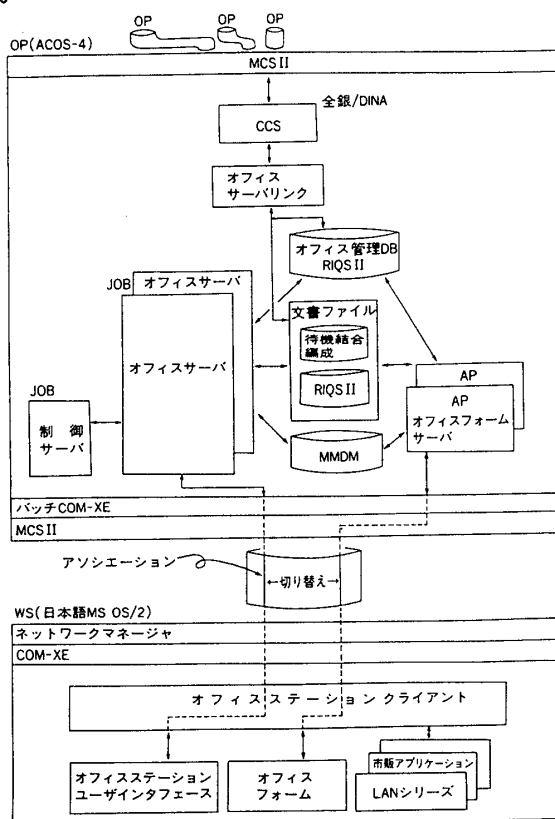


図 3. アラジン II の実装構造

5. おわりに

以上、次世代統合オフィスシステムへ向けてのアラジンIIを紹介したが、今後、さらに本システムの適用を通してオフィスにおける知的作業の支援に必要な機能を掘り下げて行きたい。

【参考文献】
山崎他：日本電気本社ビルのO A システムを支える“アラジンⅡ”
NEC技報VOL.43 NO.6/1990